

社会福祉法人 たすけあいゆい

令和4年度 事業報告

目次

I. 基本運営方針.....	2
II. 令和4年度組織図.....	6
III. 令和4年度部門別組織図.....	7
IV. 高齢者まちづくり部門事業報告.....	10
睦地域ケアプラザ 居宅介護支援センター.....	10
居宅介護支援センター 陽だまり.....	12
睦地域ケアプラザ 地域包括支援センター.....	13
デイサービス さくら.....	14
デイサービス 陽だまり.....	15
たすけあいゆいわかば.....	16
睦地域ケアプラザ 地域活動交流・生活体制整備.....	17
V. 障害児・者部門 事業報告.....	18
就労継続支援B型 夢心.....	18
就労継続支援B型 えくぼ.....	20
障害者共同生活援助 ハイムくるみ.....	22
地域活動支援センター ソーシャルクラブハウスときわ.....	23
たすけあいゆい相談支援センター.....	24
児童発達支援 さくらんぼ.....	26
VI. 子ども家庭・まちづくり部門 事業報告.....	28
児童家庭支援センター むつみの木.....	28
児童家庭支援センター ゆいの木.....	29
児童家庭支援センター さくらの木.....	30
睦母子生活支援施設.....	31
横浜市乳幼児一時預かり つくしんぼ園.....	32
ゆいひなた塾.....	34

I. 基本運営方針

1. はじめに

新型コロナウイルスの変異株の流行による職員へのストレスや、事業への影響を最小限にできるよう、法人一丸となって、感染予防に取り組んだ結果、職員は家庭内感染にとどまり、クラスターの発生には至りませんでした。

2. サービスの変更・拡充

・デイサービスわかばを閉鎖したが、デイサービス陽だまり、デイサービスさくらで利用者の移行ができ、職員は面談を実施し、希望者は全員別事業所への異動となり、閉鎖による利用者や職員への不利益は最小限に抑えることができた。

・認可外保育園「つくしんぼ園」は、企業主導型保育事業を閉鎖し、横浜市乳幼児一時預かり保育事業を主とした運営に変更したことで、利用者のニーズとして未就学児の中でも0歳児の預かり希望者が多い結果となった。

・南区内の訪問看護ステーションが増加し、たすけあいゆい訪問看護ステーションの増収が見込めないため、令和5年5月末をもって閉鎖することした。利用者は別の訪問看護事業所へ契約変更の手続きを進め、サービス提供が途切れない様努めた。

3. 法人全体の経営体質の強化

・新型コロナウイルス感染防止対策の継続

職員が一丸となって新型コロナウイルス感染防止対策を継続し、事業運営が継続できるように努めた。職員の感染対策の一環としてPCR検査の実施や診断用抗原検査キットでの定期的な検査の実施、産業医の協力のもと、ワクチン接種の励行等、できる限りの感染対策を講じ続けた結果、クラスターの発生を防ぐことができた。

・ハラスメント防止に努める

ハラスメントホットラインを株式会社労研に委託し、職員に周知した。各事業所でハラスメント防止研修を実施し、ハラスメント発生の防止に努めた。

・ICTの導入を進める

事業所の食事注文からICTの導入準備をはじめ、令和5年度中に全事業所で稼働を予定している。職員の勤怠管理についても令和4年度下旬より試験導入をはじめ、令和5年度中にすべての事業所で稼働を予定している。

・有給休暇取得の推進を継続する

働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律の成立に伴い、就業規則を改定し、年次有給休暇10日以上職員に対し、そのうち5日間は当該年度内に消化できるよう、不足分

の人材を事業所間で補いあえるよう、パート職員から常勤職員へとキャリアアップし働き方を変更した職員もあり、人材交流を始められた事業所もあり、有休消化がしやすい状況になった。

4. 部門別事業報告

高齢者・まちづくり部門全体の事業報告

① 新型コロナウイルス感染防止について

毎月部門会議にて各事業所での新型コロナウイルス感染状況や、睦ヶアプラザからの近隣地域サービス事業所等の感染情報を毎月共有し、感染拡大の防止に努めた。又、検査キットを各事業所での備蓄し、検査がスムーズにおこなえるよう部門間で情報や状況の共有を図り、クラスターの発生を防止した。(横浜市が実施した無料 PCR 検査令和 4 年 4 月提出分まで実施)

② BCP の策定について

BCP 策定に関する外部研修への参加を継続し、情報収集を実施した。具体的な策定については令和 5 年度に継続して実施する。

③ 地域との関わりについて

睦地域ヶアプラザより地域住民の方々のニーズや地域のイベント等、地域活動に関する情報共有をし、各事業所との連携に努めた。

障害児・者部門全体の事業報告

① 虐待防止対策について

虐待防止委員会を設置し、虐待の未然防止や虐待事案発生時の検証や再発防止策の検討を実施した。障害児・者部門虐待防止委員会及び身体拘束等適正化委員会を設置し、月一回委員会を開催した。虐待防止及び身体拘束の適正化に関する各事業所内での取り組みについて話し合い、身体拘束に対する正しい知識の習得、虐待防止に対する職員の意識を高めた。また、虐待防止・身体拘束適正化のための指針について委員会で検討し、事業所ごとに指針を作成、各事業所内で周知徹底を行った。

② 新型コロナウイルスを含めた感染対策について

毎月の部門会議で感染状況について報告、感染防止についての情報交換を行った。利用者はじめ職員にも感染者が発生したこともあったが、適切な対応により感染をまん延させることなく事業運営を継続できた。感染症対策等の強化が令和 6 年 4 月より義務化される為、食中毒の予防及び感染症のまん延の防止等に関する取組の徹底する為の、委員会の開催、指針の整備、研修の実施、訓練の実施を行うための体制を整えていく。

③ 業務継続計画 (BCP) の案を作成について

今年度は研修受講や情報収集を実施し BCP の作成は令和 5 年度に持ち越すこととなった。令和 6 年度からの義務化に向け、感染症対策の強化に係る取組と合わせて整備をすすめていく。

④ **管理者、職員の有給休暇取得促進について**

各事業所内で有給休暇の取得しやすい環境づくりを継続し、管理者、職員ともに5日以上の有給休暇を取得することが出来た。また、部門内で受注作業を協力して行い、工賃収入の安定に繋げることができた。次年度も引き続き協力していく体制を継続していく。

子ども家庭・まちづくり部門全体の事業報告

① 重点的支援について

子ども家庭庁ができたことで、各事業の所管より当初予算からの削減要請が頻繁に来るようになった。

・児童家庭支援センター

子どもや養育者が受けた新型コロナウイルス感染拡大の影響を適切にアセスメントし、個々の特性や世帯の状況に応じた家族支援を行った。

・睦母子生活支援施設

新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設内の衛生管理を徹底した。数名の感染者は発生したが、クラスターの発生には至らず、日常生活支援を行うことができた。

・ゆいひなた塾

令和3年2月開所から1年2か月が経過し、通所児童の通所日数が増え、学習への意欲が徐々に増し、高校進学を目指す児童が増え、無事に1名高校進学した。

・つくしんぼ園

乳幼児一時預かり保育事業を主として実施したことで、地域ニーズとして0歳児が多いことがわかり、仕事に復帰する養育者への支援や子どもの発達段階に合わせ、コロナ渦の中でも子ども達のがびのびと過ごせるような保育を実施した。

② 地域貢献について

・地域交流事業

児童家庭支援センターでは、各センターで地域交流事業を実施し、センターの周知活動を行った。睦母子生活支援施設では、子どもの貧困対策として、子ども食堂（てのひら食堂・コドイチ）に参加しコロナ渦においても、近隣福祉施設や地域ケアプラザ等と協働して食事支援を継続した。

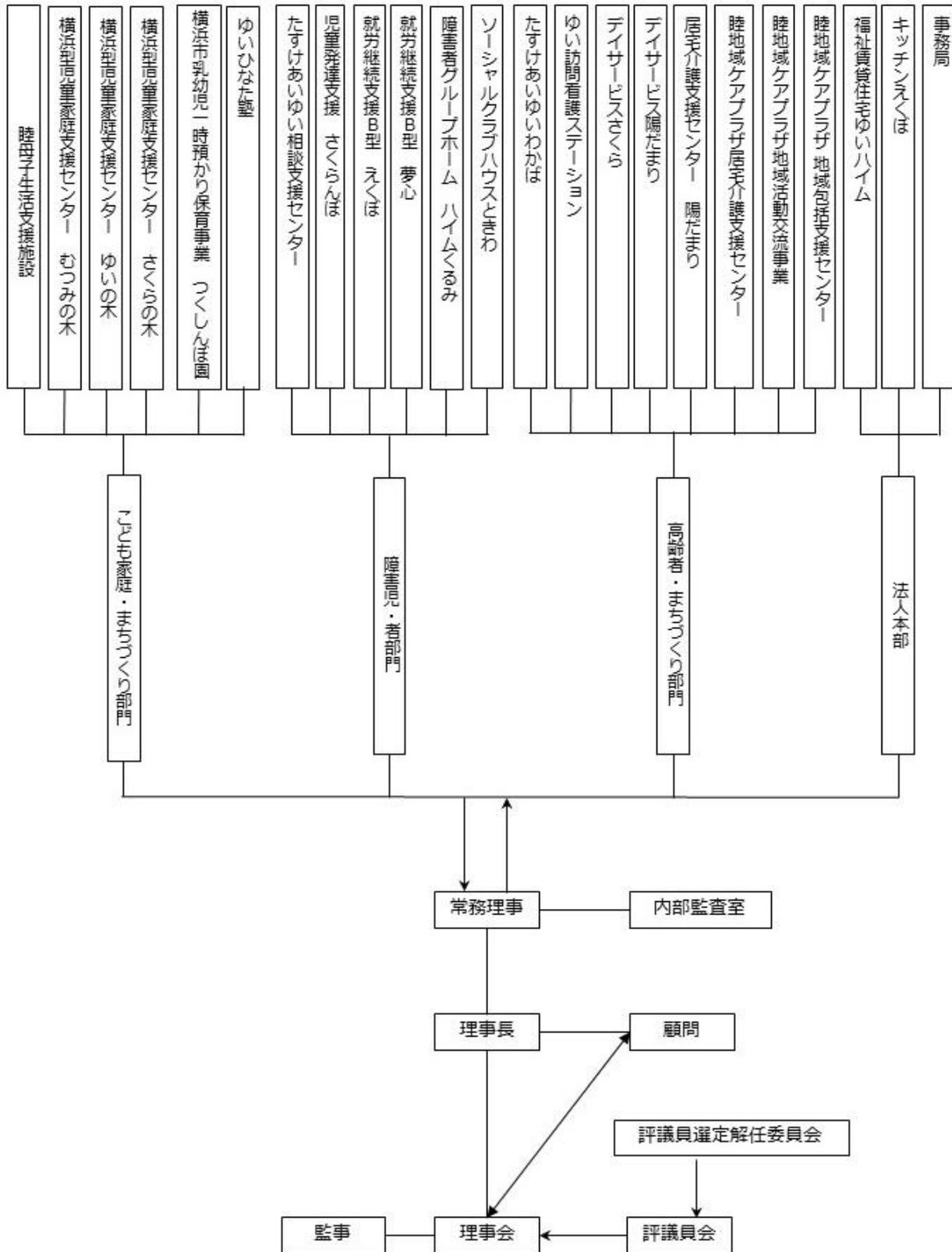
③ 職員の健康管理について

毎日検温の実施、手洗いうがい、手指消毒、マスクの着用を継続した。定期的に診断用抗原抗体検査キットを用いた検査を実施し、新型コロナウイルス感染の予防に努めた。

④ 職員育成計画について

児童家庭支援センターは社会福祉士や公認心理の採用実施し、外部研修を中心に相談援助職に必要な研修を受講した。支援の方針や内容を定める際に、他機関や多職種との連携について課題を感じる場面が増えてきたため、令和5年度は法人内研修を企画し、効果的な多職種連携を目的としたスキルアップ研修を実施する。

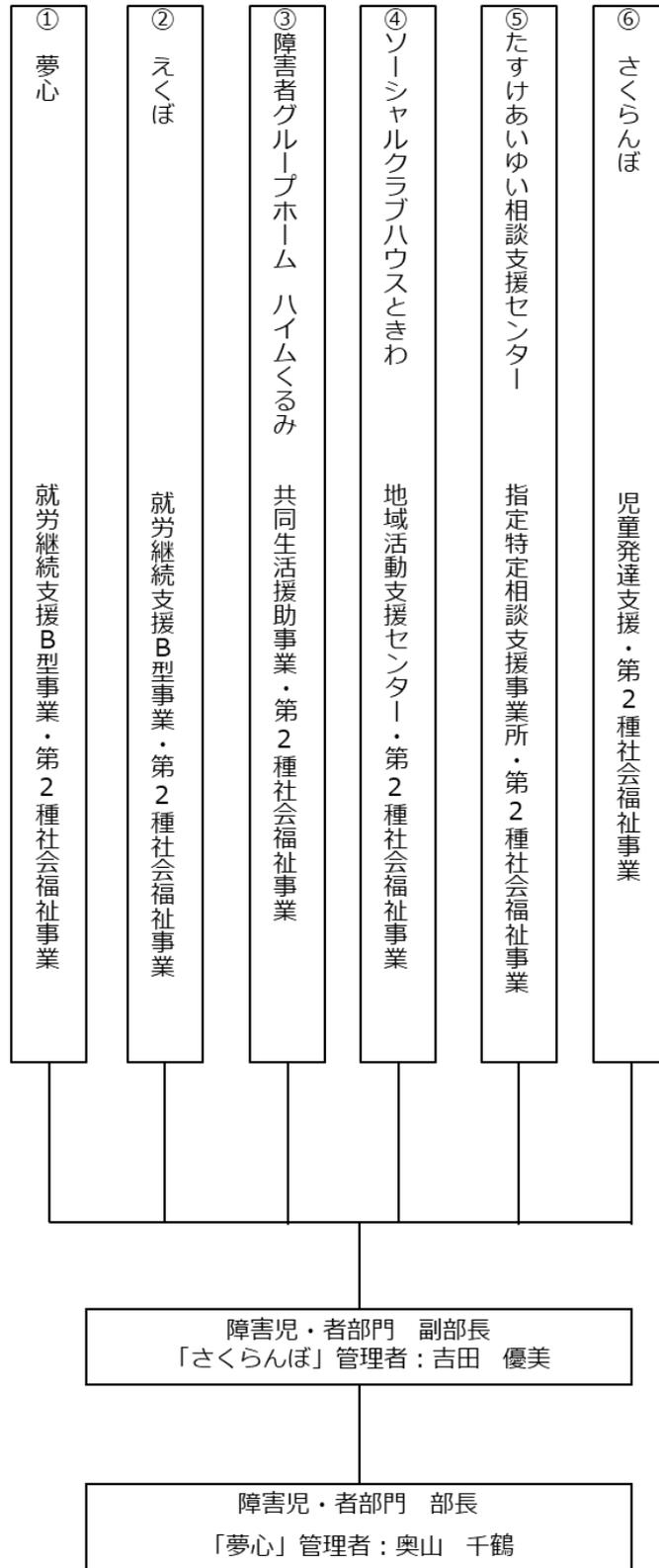
II. 令和4年度組織図



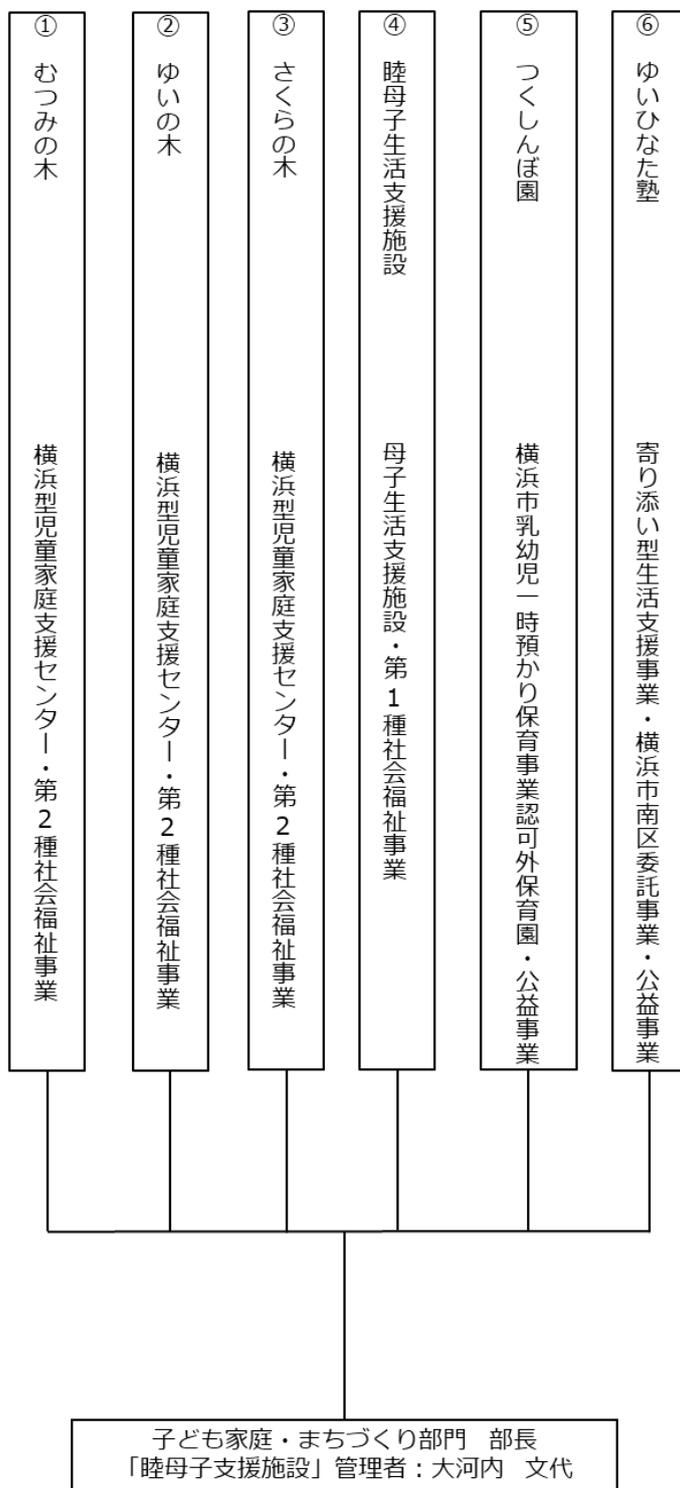
III. 令和4年度部門別組織図



障害児・者部門組織図



子ども家庭・まちづくり部門組織図



IV. 高齢者まちづくり部門事業報告

令和4年度事業報告	事業所名 居宅介護支援センター	管理者氏名	石川 敏広
総括	<p>新人ケアマネの募集も思うように進まず、特定事業所加算が取れない事が痛手となっている。在籍しているケアマネジャーは上限まで担当しており、新人募集に一番力を入れている。コロナは感染者が減少もまだ残っている為、引き続き感染予防の対応は継続する方針。</p>		
主要事業・重点取り組み	<p>○積極的に利用者を受け入れ各ケアマネジャー担当利用者数上限に近づける。(35名) ・常勤換算で2.4所属、令和4年利用者の平均が79.9名となり、予防が0.5名換算で全員で平均9名担当。利用者上限の取り組みは果たしている。</p> <p>○特定加算事業所(Ⅲ)の算定 ・令和4年4月に前管理者が異動し、特定指定は解除。新任の常勤が雇用できず未達成。</p> <p>○オンラインを活用し積極的に研修や事例検討に参加する。各自自己研鑽に励みミーティングで報告、部署内研修とする。 ・外部研修で学んだことを居宅のミーティングにて情報共有し、部署内研修実施できている。</p> <p>○介護保険のサービス調整だけではなく、社会資源の把握にも努めケアプランに活かすとともに他部門とも連携し、包括的なマネジメントを行う。 ・対応困難な事例に対し、地域包括支援センターと協力して取り組んでいる。 ・他の部署との連携にて、社会資源の把握に努め、利用者の社会参加を促している。</p>		
地域への貢献 ・取り組み	<p>○包括支援センターから地域ケア会議の出席を依頼。ケアマネジャーとして参加している。</p> <p>○地域の社会資源について情報収集を継続。地域への参加を促せるように利用者にケアプラザの広報誌やチラシなど配布して情報提供を行っている。</p> <p>○11～12月、睦町公園の清掃に参加している。</p>		
職員育成・雇用状況	<p>○ハローワークからの申し込みはなし。</p> <p>○紹介での申し込みは4件あり、その内3件とやり取りを行いました面接まで至っていない。</p> <p>○現状、常勤2.4換算。常勤専従2名と常勤兼務1名で業務に入っている。</p> <p>○在籍している職員に対し、研修の機会を設けられるよう取り組みを続けている。ZOOMの研修も多いので、出向く手間も省けるので参加しやすい点も大きい。</p>		
達成状況 予算の	<p>○常勤1名の雇用を含めて、予算を計上している。</p> <p>○新人のケアマネジャーが採用できず、収入の減少と支出も新人1名分減少となり未達成。</p>		
特記事項	<p>○現在、ケアマネ募集は常勤1名を求めています。4月に紹介から提案あり、採用試験を4/29に予定。</p> <p>○コロナ対応として、マスクの着用と手指消毒を徹底。消毒液を持ち歩いて対応している。出勤時の体温測定1年間継続。</p> <p>○熱発している方への訪問は、ガウンや帽子など使用しフル装備で伺っている。</p>		

令和4年度事業報告	事業所名居宅介護支援センター陽だまり	管理者氏名	西村 正平
総括	<p>令和3年度から利用者人数の増減はなかったが、1名予防への移行あり。法人内グループホーム利用者の介護保険利用者に対し、法人高齢者住宅ゆいハイムへの転居や成年後見制度の手続き、区役所との連絡・調整等を実施した。又、認知症カフェ開催時には、地域住民や民生委員の皆様との情報交換等連携を図ることに重点をおき、同一敷地内ヒラソル磯子住民の方々の相談窓口として積極的に相談支援を実施した。</p>		
主要事業・重点取り組み	<p>① 定期的で開催している認知症カフェにて、利用者家族への参加の声掛け、介護相談等もおこない利用者家族との関係づくりに努め、デイサービス陽だまりと連携し認知症の方が居宅において、安心して家族と過ごしていける環境づくりに努めた。</p> <p>② 認知症カフェ（3か月に1回の頻度）開催時には、地域の方々や民生委員等参加をして頂き交流を図れていたが、新規利用者の獲得までは繋がらなかった。今後も地域の方々との交流の場として認知症カフェを活用し、地域での認知症ケアの中心的役割を果たしていきたい。</p>		
地域への貢献・取り組み	<p>同一敷地内高齢者住宅ヒラソル磯子の住民の方々に認知症カフェのボランティアを依頼し、今まで以上に関係作りを意識して実施し、住民の皆さんの介護相談等にも積極的に対応した。併設の認知症デイサービスが行う、認知症カフェを高齢のボランティアの方々を交えて共同で行うことで、地域の方々との交流を深め新規利用者の獲得を目指したい。</p> <p>ヒラソル磯子住民の方々の認知症カフェ参加も民生委員方の協力のもと参加可能な日はご利用頂き、定着している。今後は、今まで参加されていなかった住民の皆さんにも、引き続き開催の案内やお声掛けを継続し、民生委員や磯子区役所のケースワーカーと連携し、認知症になっても安心して地域で暮らし続けられるよう支援していきたい。</p>		
職員育成・雇用状況	<p>磯子区居宅連絡会主催の勉強会（オンライン開催）等に定期的に参加し、スキルアップを図った。</p>		
予算の達成状況	<p>令和3年度から引き続き収入増及び予算は達成できた。</p>		
特記事項	<p>新型コロナウイルス感染症対策をデイサービス陽だまりと共同で実施した。又、感染拡大時には横浜市からの指示により、利用者のモニタリング、定期訪問、担当者会議等電話での対応を実施した。職員は毎朝の検温の実施、マスク着用、手指消毒、手洗い、事業所での換気の徹底、各箇所での消毒作業を継続して実施した。訪問先利用者への非接触型体温計携帯及び検温の実施、定期的なマスク配布、利用者の体調不良時の各サービス機関との連絡及び緊急時対応を継続した。</p>		

令和4年度事業報告	事業所名 睦地域 CP 地域包括支援センター	管理者氏名	高橋 裕子
総括	<p>前年に比べ、介護申請の相談が増加しており、直接給付につながらない住宅改修や、配食サービスの相談も多くみられた。年度途中でプランナー（非常勤）の雇用したため、受託件数を分散することができた。困難ケースは長期にわたるケースも見られ関係機関、地域住民とも連携して支援にあたり地域ケア会議でも検討を行った。</p>		
主要事業・重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、近隣の福祉施設や関係機関と連携を図り、地域ケア会議やヒアリングであがった課題を共有し、自主事業を展開する。 →睦コミハと共催事業や地域住民との連携を活かした地域ケア会議の開催等を行った。今後の展開を行う。 達成状況：一部達成 ・コロナ禍でも行った、公園を利用した介護予防の事業を他部署、区と連携し発展させる。担い手の発掘や自主化に向け活動の継続化を目指す。 →2か所の公園を利用して、介護予防サポーターと共に開催し、参加者の中から新たな担い手を発掘することができた。自主化に繋ぐには至っていない。 達成状況：一部達成 ・5職種会議を行い、地域の情報、事業の共有化を図る。 ・毎日のミーティングに加えケース会議や自主事業・各職種分科会での情報共有を密に行う。 →不定期で5職種会議を開催した。事業に関しては予防担当者に情報提供する機会もあったが、地域の情報については、さらに共有が必要である。 達成状況：一部達成 ・適切な予防ケアマネジメントを行い、公正中立なサービスの提供、介護予防支援・予防ケアマネジメントの委託契約事業所との連携を図る。 →委託事業所の情報はホームページやパンフレットで説明し本人、家族に選択してもらうこととしており偏りがないように努めた。 達成状況：達成 		
地域への貢献 ・取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な相談窓口であることの周知活動を行い、迅速な対応を行った。 ・地域の活動や会議や食事会に出席し顔の見える関係を構築した。 		
職員育成 ・雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・R4.4月 予防プランナー退職（非常勤） 10月 予防プランナー雇用（非常勤） ・主任ケアマネ更新研修 ・横浜市健康福祉局からの包括職員向け研修を受講 		
予算の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市からの指定管理料を適正に運用した。 ・介護予防支援・予防ケアマネジメントの請求、平均月210件（委託契約を含む）行った。 		
特記事項	<p>毎朝、出勤時に検温、記録を行った。朝ミーティング後は消毒を行い換気に努めた。来所相談時にはパーテーションを使用、使用したスリッパの消毒も行った。カンファレンスは必要に応じてZOOMを活用した。職員に抗原検査キットを配布し、適宜使用し陰性を確認の上、業務を継続した。</p>		

令和4年度事業報告	事業所名 デイサービスさくら	管理者氏名	西 美千代
総括	<p>新型コロナウイルスの感染予防に職員が一丸となって努めたため、感染されたご利用者様はほとんどいませんでしたが、外出によるコロナウイルス感染を恐れて、デイの利用を控える方が増え、利用者人数の増加には難しい状況が続いていました。</p> <p>事業所内クラスターの発生を防ぐことができ、休業することなく運営を継続することができました。</p>		
主要事業・重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターや担当ケアマネジャー、病院等と連携し協力することで、コロナ渦においてもなるべく孤立しないように、定期的にデイサービスさくらをご利用していただいた。 ・ご利用者様のご家族とは連絡帳や、お迎えに伺った際にコミュニケーションを取り、ご家族よりご家庭での様子等を伺い、デイサービスでの支援に活かせるように努めた。 		
地域への貢献・取り組み	<p>新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、感染者数が減少しても、家族間感染などが定期的に発生し、利用者数の増加には至らなかった。</p> <p>デイサービスを開放し、地域の方々との交流する機会を設けたかったが、コロナウイルスの影響は大きく、安全に交流することが難しいとの判断で今回は断念し、マスク着用のもと、一定の距離を保ちながら、ケアプラザへ来館して下さる地域の方々やさくらの近隣にいらっしゃる方には、できるだけ笑顔でのご挨拶を心がけた。</p>		
職員育成・雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で外部での研修はほとんどなく、代わりにオンライン研修を受講した。 ・月1回の生活相談員の会議で細かな援助方針を決め、毎月のスタッフミーティングで共有し、特に接遇を中心に研修を行った。 ・必須研修の他に、認知症の特性、認知症の方とのコミュニケーション等を学び共有した。 ・働きながら、介護福祉士の資格取得を目指す職員が増え、確実にキャリアアップを目指せる環境をコロナ渦においても整えることができた。 		
予算の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営安定のため、新規利用者の確保に努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温や体調の変化に早めに気づけるような仕組みづくりをし、ご利用者様やそのご家族の皆様にもご協力を頂き、事業所全体の感染症対策を行った。 ・コロナウイルス感染拡大防止の為の備品の確保を行い、コロナウイルス感染の動向を見ながら、新規利用者獲得を増やしていきたい。 		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・利用されている方の中には、認知症の方々が少なくないので、今後も認知症特性を理解し、知識を深め運営方針に沿ったサービスの提供を行う。 ・近隣介護施設や地域の情報を収集し、感染拡大防止を引き続き行う。 		

令和4年度事業報告	事業所名 デイサービス陽だまり	管理者氏名	西村 正平
総括	<p>高齢により障害福祉サービスから、介護保険へ切り替えられる新規利用者も増え、個別に連携を図りながら利用日数の増加等に繋がっている。又、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらの運営を行い、クラスターの発生等を防ぎ、通常の事業運営をおこなうことが出来た。</p>		
主要事業・重点取り組み	<p>① 日々の日常生活リハビリの実施、機能訓練の為の外出では、気分転換と下肢筋力の維持ができた。また、公園での季節の移り変わりを感じ、笑顔や表情の変化に現れ、外出する楽しさ味わっていただけた。その際に楽しんでいる様子を写真に撮り、自宅に持ち帰ることにより、ご家族とのコミュニケーションをとるツールとして活用され喜んで頂いている。</p> <p>② 利用者とのコミュニケーションに重点をおき、利用者が1日を通じ穏やかに落ち着いて過ごして頂いた。毎月実施する職員会議及びケース会議にて個別対応に対しての共有化を継続した。研修を通じ、認知症ケアのスキルアップに職員全体で取り組むことが出来た。</p> <p>③ 認知症ケアにおいて重要なご家族との関わりを大切にし、日々の連絡帳での家族との関り方や相談助言等、情報共有を図り、日々のご利用者様との関係をご家族と共に築くことができた。認知症カフェの開催により、連携をより深めることができた。</p>		
地域への貢献・取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の簡単な調理プログラムによる近隣商店街への買物を通じ、職員・利用者と共に近隣住民の方々との関わりを継続した。 ・磯子区役所及び磯子地域ケアプラザの協力のもと、定期的で開催している認知症カフェの地域への周知活動を実施した。 ・カフェの開催時には地域の民生委員の方や地域のボランティアの方々の参加も増えており、今後も継続していきたい。 		
職員育成 雇用状況	<p>令和4年度はコロナ渦の影響で対面形式の研修が中止され、オンラインの研修への参加となった。令和5年度においては、外部研修参加の再開、オンライン研修の活用をし、パートから常勤へキャリアアップできるよう、職員の育成を継続する。</p>		
達成状況 予算の	<p>令和4年度の陽だまりは3年度からの売上増となり、年度後半に利用者減の影響により収入減となったが、当初予算からの収入増に伴い、上方修正した。</p>		
特記事項	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、朝、送迎車両への乗車前の検温及びご家族からの体調等の聞き取り・職員出勤時の検温・感染拡大時期における抗原検査の実施、施設での定時間帯における換気、消毒の実施。職員、利用者のマスク着用の徹底、手洗い、アルコール消毒の徹底。施設内及び送迎車両内のアルコール消毒の徹底。ご家族への感染予防の周知活動。緊急用の抗原検査キットの備蓄をおこなうことによる職員、同居家族、利用者の体調不良時にも速やかな検査実施することで職員が安心して勤務出来る環境づくりに努めた。</p>		

令和4年度事業報告	事業所名 たすけあいゆい わかば	管理者氏名	神谷 幸子
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合わせたサービスを行い、安心して自立した生活ができるようサービスを提供する。 ・ヘルパーからの報告に素早く対応し関連機関との連携を図り、利用者により良いサービス提供に努めた。 ・介護保険の利用者の終了もありましたが、新規の依頼もあり人数は変わりがなかった。障害福祉は、少しずつ新規が増えている。 ・受託事業（養育支援）18歳までの為2名終了となったが、子供の虐待防止の為、関係機関と連携を取ることが出来た。 		
主要事業・重点取り組み	<p>○介護保険は一年間で4名終了(入所者・死亡者)、介護 新規5名 支援から介護へ移行3名 総合事業新規6名と増えた。介護度が低い為収入は減少している。</p> <p>障害福祉は新規5名、終了者2名、法人内事業所の利用者の依頼もあった。</p> <p>○第三者機関による利用者満足度調査を毎年実施。今年度の評価も前年度より上がっており、この評価を励みに、今後もより良いサービスを提供していきたい。</p> <p>○定例会はコロナ禍の為、対面形式では感染予防対策をしたうえで1回実施した。必須研修に関しては資料を配布してそれぞれ自宅で勉強を行い提出してもらった。令和5年度は 以前の様に事業所にて研修を行い、ヘルパーとの連携を密にして行きたい。登録ヘルパーに外部研修を受けようことが出来なかった。次年度は環境を整えて、もっと気軽に受けて貰えるようにしたい。</p>		
地域への貢献	<p>地域の行事に参加する事が出来なかったが、変わらず近所の方との挨拶が出来た。</p> <p>少しずつ地域主催の行事も増えてくるので、出来るだけ協力していきたい。</p>		
雇用状況・職員育成	<p>職員はパート新規職員1名雇用、登録ヘルパー退職者1名。登録ヘルパーの時給の引き上げを行った。キャリアアップのため、職員に声をかけをし、介護福祉士の資格取得を促した。</p> <p>登録ヘルパーにズームでの研修を受講してもらうことができなかったため、令和5年度は実施できるよう環境を整えたい。</p>		
達成状況	<p>介護保険は新規も増え人数的には減っていないが、介護度の違いがあり収入が減ってしまった。</p> <p>障害は利用者数の変化はあまりなかったが、目標額を達成することができなかった。</p>		
特記事項	<p>今後も、事業所入室時には必ず手洗いうがい、マスクの着用を継続する。</p> <p>ヘルパーの体調を確認する。</p> <p>利用者宅でも、換気、消毒、マスクの着用、体調確認を継続する。</p>		

令和4年度事業報告	事業所名：睦 CP 地域活動交流 生活支援体制整備	管理者氏名	布川 和宏
総括	今年度もコロナ禍の影響を考慮しての事業運営となり、利用定員に制限を設けたり、活動時間を短縮する等の状況ではあったが、その中でも地域の資源を効率的に活用し幅広い世帯への支援に取り組んだ。特に認知症支援、ロコモ予防、オンライン講座、子ども食堂の支援等に力を入れ、地域の関係者等とも連携が図れた。		
主要事業・重点取り組み	<p>①担い手やボランティアを育成し、事業実施の際には活動の場として提供する体制づくりを行う。 また、地域のサロンや活動の後方支援を行い地域の活性化を図る。 →【未達成】長年の課題にもなっている担い手不足や地域力の低下は改善が難しく、引き続き地域と一体となり、粘り強く取り組む必要性があった。</p> <p>②地域の会議や行事に参加し、ネットワークの構築を図る。近隣の施設と連携して協働で異世代交流が図れる事業に取り組む。 →【一部達成】地域との顔つなぎは出来ていた。異世代交流事業としては公園映画会、キッズサポーター認知症講座、中高生向け学習支援、異世代を対象とした地域新年会等を企画、開催した。</p> <p>③5職種会議（主任ケアマネジャー・社会福祉士・看護師・地域活動コーディネーター・生活支援コーディネーター）を行い、地域の情報、事業の共有化を図る。 →【一部達成】毎月若しくは隔月で会議を実施し、地域や事業についての共有を行った。また偏った支援にならないように複数の職員で事業を担当したり、事業報告書や各書類は5職種内で回覧し、精査を行いながら進めた。</p> <p>④感染防止に努め、各職員が協力し安全に行える事業の企画、運営を行う。 →【ほぼ達成】貸室利用の目的や事業内容に困って、感染リスクの可能性がある場合は同意を得て、制限を執り行った。施設外で事業を開催する際も、非接触型体温計や消毒液を持参し、常時感染拡大の防止に努めた。</p>		
地域への貢献等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な存在であることを心がけ、ワンストップ窓口として対応を行い必要な支援機関に繋げる。（R4年度 地域包括対応相談件数：延べ 1523 件） ・地域の活動や会議に参加し、顔の見える関係を構築し必要な後方支援を行う。 （R4年度参加会議：地区会長連絡会、民生児童委員協議会会議、地区社協会議、地域支援チーム連絡会、地区懇談会、地域防災拠点会議、エリア別虐待防止会議等） 		
職員育成 雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は県社会福祉協議会が実施する、地域支援プログラム研修事業を生活支援コーディネーターが受講。有識者等からアドバイスを受ける機会を設けた。 ・9月末にサブコーディネーター職員が1名退職。年明けよりサブコーディネーター職員が1名入職し、現状を維持。 		
達成状況 予算の	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね指定管理料に沿った、執行状況であった。 		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は毎出勤時に検温し、就業時検温表に記入。また抗原検査キットを常備し、体調不良等の自覚があった際は、必ず検査を行い、陰性を確認した後に就業。 ・施設来訪者にもマスクの着用と入館時の体温測定、上履きの持参協力を依頼。館内は定期的な消毒と換気に努めた。 		

V. 障害児・者部門 事業報告

令和4年度事業報告	事業所名 就労継続支援B型 夢心	管理者氏名	奥山 千鶴
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・開所日数 259 日、契約者数 31 名（R5.3 月末現在）、平均利用者数 1 日あたり 17.7 人だった。 ・職員配置は、常勤換算 2.7 人、福祉専門職配置加算、目標工賃達成指導員加算を取得し、キッチンえくぼへの昼食注文、B 型えくぼへの配膳業務依頼継続より、食事提供加算を取得することができ給付費安定につながった。 ・利用者に年 2 回のボーナスを支払うことができ、年度末ボーナスで作業収入残をすべて支払った。 ・新型コロナウイルス感染者数は、利用者 8 名（みなし含む）、職員 2 名。感染拡大することはなかった。 ・職員の抗原検査を週 2 日実施、マスク着用、手洗い、手指消毒、事業所内消毒を徹底して行った。 		
主要事業・重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日枝小学校軽作業スタッフ派遣・ワックスがけ・プール清掃 受託から約 3 年が経過、様々な依頼があり、生徒と一緒に行う作業は、特に貴重な時間だった。軽作業と言えないような依頼もあり、メンバーが真剣に向き合い、完成度高く、すばやく仕上げているところが信頼されているからだと感じた。ワックスがけやプール清掃は、B 型えくぼと一緒にいき、割烹着、配膳台カバーの洗濯・アイロンがけはときわに依頼、連携して行った。 ・中村小学校エアコンフィルター・換気扇・扇風機清掃 年 1 回春休み中の依頼で今年度も受託した。扇風機のフレームが劣化しているものが多く、結束バンドで対応するなど、丁寧な作業を心がけた。 ・蒔田公園清掃 植え込みの中のごみや、吸い殻などの細かいごみの見落としに気をつけ、不法投棄のごみの分別も丁寧に行なった。 		

<p>地域への貢献・取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日枝小学校、中村小学校での作業 先生の負担軽減だけではなく、生徒の健康や安全につながると考えている。先生方から頼りにされていると感じられ、たくさんのありがとうの言葉を頂き、メンバーは常にまっすぐな気持で、一生懸命作業していた。困っている生徒に声をかけられ、優しく対応している姿も見られた。 ・蒔田公園清掃 小さい子供達から高齢者まで、公園を利用する地域の人達が、気持よく利用してもらえるようにという思いで行なった。メンバーが、地域の方と挨拶をしたり、質問に答えたりする場面もみられるようになった。日枝小学校生徒の落とし物を見つけて連絡したり、授業で来た先生や生徒と挨拶を交わしたりと、蒔田公園での作業が日枝小学校ともつながっているということが実感できた。 障害者が自立を目指し、作業を通じて地域とつながり、貢献の対価として収入を得ることができ、 自分は役に立っていると自信につながるようにという思いで受託した。
<p>職員育成・雇用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員 1 名、サービス管理責任者基礎・補足研修が終了した。 ・職員の負担軽減（運転など）を考え、人材紹介会社より紹介を受け、パート職員 1 名採用したが、家庭の事情により退職となった。
<p>予算の達成状況</p>	<p>下半期に補正予算を立て、給付費、人件費等の見直しを行った。 水光熱費、消耗品費が、予算より多少上回ったが、その他の科目は、ほぼ予算通りとなった。 次年度も節約に努める。 次年度の課題として、工賃作業収入が増えるよう職員で考えていく。</p>
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月 1 回、障害部門虐待防止・身体拘束適性化委員会を開催、事業所に持ち帰り、B 型事業所の虐待、身体拘束とはどういうものを改めて考え、話し合い、職員が自分自身を振り返る時間ができた。 ・作業手順の見直しや作業進行の相談など、職員からの提案事項をこまめに話しをし、共有、実行することができた。

令和4年度事業報告	事業所名 えくぼ	管理者氏名	望月 文
総括	<p>今年度も新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら昨年同様 269 日開所。一日の平均利用者は 12.9 名（昨年度 13 名）、延べ利用者は 3,446 名（3,473 名）。2 名が契約終了、感染による出勤制限などもあったが、在籍中の利用者の出勤日を増やせたことにより昨年に比べ利用者数の大きな減少にはならなかった。契約者は 16 名（うち新規利用者 1 名）。</p> <p>工賃作業については、法人内事業所からの協力を得て、引き続き洗濯作業や外作業を受注できた。4 月から内職作業の新たな受注先も増え、より多彩な作業を利用者に提供できた。</p> <p>その一方で、運転可能な職員 2 名の退職により、納品や車両を使う作業への職員配置が難しくなった。作業時間や内容を変更せざるを得ない状況が続いており、運転可能な職員の採用が急務といえる。</p> <p>また、8 月に横浜市の実施指導で改善を指摘された事項については速やかに改善し、改善報告書を横浜市に提出している。その際、就労継続支援 B 型としての工賃作業の在り方についてご指導いただいた。その指導を次年度に生かしながら、より安定した工賃作業の安定を図りたい。</p>		
主要事業・重点取り組み	<p><利用者のサービス向上と新規利用者の確保> →一部未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに内職作業を受注できたことで、今まで見えなかった利用者の得意な面を引き出すことができ、そのことが利用者のやる気の向上にも繋がった。 ・見学者の受け入れ、体験利用も積極的に行ったが正式利用に至ることは少なく、新規利用者は 1 名にとどまった。 <p><就労支援事業収支及び給付費の安定> →一部未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給付費については 2 名の利用者が契約を終了したが新規利用者が 1 名しか確保できず、当初の予算より大きく減少した。 ・新型コロナウイルスへの感染による就業制限が発生したこともあったが、経費の削減を心掛け、平均工賃月額が 11,438 円（昨年度 11,830 円）となり、利用者に臨時賞与を支払うことが出来た。 		
地域への貢献・取り組み	<p><地域で安心して働ける場の提供></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢心と共に近隣小学校のプール清掃をさせていただき、地域の中で身体を動かし収入を得る喜びを実感できる貴重な場を提供することができた。工賃作業面でも大きな収入となり、得た工賃は利用者の大きな励みとなっている。 		

職員育成・雇用状況	<p><職員の働きやすい環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止研修など内部研修を充実させ、支援者としてのスキルを高めるとともに虐待や身体拘束に対する知識や理解を深めることが出来た。 ・ドライバー2名の退職に伴い、運転業務の増加、職員の作業配置の変更などが生じ、職員全体への負担が大きくなっている。求人広告への掲載など新たな採用方法も活用したが、運転可能な支援員を新たに雇用するに至らなかった。次年度も引き続き効果的な採用方法について検討し、職員の意見に耳を傾けながら最善の就労環境を提供できるよう努めたい。
予算の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者は1名しか確保できず、契約者数は16名。給付費の当初の予算を大きく下回ることとなり年度途中で予算の補正を行った。 ・ゆいこども園内グリストラップの清掃及び整備はむつみの木職員と行い、施設全体の経費削減に努めた。事業所内で購入する備品や消耗品についても定期的に価格を比較し、購入品を見直すなど経費の削減に努め、特に工賃作業に必要な経費を抑えることが出来た。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンえくぼで作られた栄養バランスの良い食事を提供し、利用者が健康的に働けるよう支援した。今年度は季節の行事に合った食事が数多く出され、利用者にとっても食べることで季節を感じる事ができる豊かな時間となっている。 ・虐待防止や身体拘束適正化に関する委員会での意見交換を通して、職員一人一人が日々の業務を振り返り、改めて支援の難しさや大切さを実感できた貴重な1年だった。

令和4年度事業報告	事業所名 ハイムくるみ	管理者氏名	濱田 静江
総括	<p>○利用者が地域で、自立して、安全で安心して生活が送れるように、利用者一人ひとりの状況に合わせて、個別支援計画書を作成して、支援を行いました。</p> <p>○利用者の意思及び人格を尊重して、利用者の立場に立ったサービスの提供に努めました。</p>		
主要事業・重点取り組み	<p>①利用者の意思及び人格を尊重して、利用者一人ひとりの生活に合わせ、どのような支援が必要なのかという気づきの視点を持ちました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のできている所に目を向け、維持向上が図れるよう支援しました。 ・利用者の体調管理については、利用者の変化やいつもと違う様子がある場合は受診同行して、医療機関や関係機関との連携強化に努めました。 <p>②職員一人ひとりが気付きを大切に、また、情報をしっかり共有して、業務にあたりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス管理責任者が中心となり、チーム支援を重視し、支援内容の方向付けがしっかりできました。 		
地域への貢献・取り組み	<p>○各ホームの地域住民や町内会との連携を強化しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会への行事(地域の防災訓練、餅つき会など)へ積極的に参加しようとしたが、4年度も新型コロナウイルス感染防止のため、すべて中止になりました。 ・町内こども会への古紙回収には毎月協力しました。 ・共進中学校地域防災拠点運営委員会には、欠かさず出席しました。 		
職員育成・雇用状況	<p>○毎月の職員会議でテーマを決めて、研修を行い、全員研修報告書を作成し、自己研鑽に努める。</p> <p>○必要な研修に参加し、研修内容をフィードバックし、職員の資質向上に努めた。</p> <p>○ハローワークへの求人、有料求人サイトへのアップ、法人のHP・求人折込広告などを利用して、常勤職員・宿直職員の人材確保に努めた。</p>		
予算の達成状況	<p>○入居定員：45名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満床に努めたが、1~2床なかなか埋まらず、収入増にはならなかった。 ・医療機構の借入100万/月が2027年まで継続。 ・職員体制(4:1)が整わず、給付単価での収入アップができなかった。令和4年度は5:1の体制となった。 		
特記事項	<p>○職員・利用者も数名コロナ陽性に感染したが、適切に対応して、拡大することはなかった。</p> <p>○令和5年3月13日から、マスクの着用は個人の判断になったが、コロナ感染が終息したわけではないので、新生活様式の継続と、コロナ感染者が場合には、すみやかに適切な対応をして、拡大させないように努めた。</p>		

令和4年度事業報告	事業所名 ソーシャルクラブハウスときわ	管理者氏名	濱田 静江
総括	<p>登録者は前年度から2名減の22名、一日の平均通所者数は9名だった。当施設の開設間もないころからの利用者が多く、高齢化による減少が続いている。</p> <p>日中の居場所としての利用の他、引きこもりの防止、コミュニケーション作り、生活のリズムを整える上での大切な活動の場所となっている。週1回の工賃作業の他、脳トレ教室やビデオ観賞、料理教室など、毎日様々なプログラムを提供して通所のきっかけ作りとしている。</p>		
主要事業・重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活している利用者が孤立することのないよう、それぞれの利用者の状況を見ながら、安心して過ごせる居場所の提供を行なった。利用者がコミュニケーションを取りやすいよう声掛けをして、通いやすい雰囲気作りを心がけた。また、プログラムをより参加しやすいよう見直しを行なった。 ・利用者の関心のあること、できることを引き出し、一人でも多く作業に加われるよう促している。従来の製品のデザインを改善したことにより売り上げが向上し、工賃の増加につながった。 ・今まで中止していた外部での販売を6月から再開した。蒔田駅での隔週2回の販売の他、南区役所で開催された南なんデーでも販売を行い、利用者と地域との交流の機会を作った。 		
地域への貢献・取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もはぐはぐの樹主催のスタンプラリーの景品交換所として参加した。来所した親子に施設で作成した製品を景品として交換し、好評をいただいた。 ・施設に設置してあるウォーキングポイントリーダーの対応の他、歩数計の電池交換や使用方法などの質問への対応を行なった。 ・AEDを設置、AEDステッカーを入りに掲示し、地域のアんしん材料のひとつとして周知した。 		
職員育成・雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で毎回研修を行い、業務に必要な知識を高めた。 ・個別支援計画を3人の職員で振り分け、面談と計画作成を行なった。利用者へのより細かい理解と支援につなげた。 ・職員1名が精神保健福祉士資格を取得した。今後の業務の向上に生かす。 ・雇用については、昨年度と同じ職員が今年度も引き続き勤務したため欠員はなく、補充も行わなかった。 		
予算の達成状況	<p>横浜市より10名分の補助金が支給されたが、平均通所者数が1名減の9名となったため、一部返還を行う。</p>		

特記事項	<p>3年ぶりに外部での販売を再開した。多くのお客様と接し、製品をお買い上げいただくことで売り上げのアップとともに利用者の意欲向上につながった。</p> <p>コロナ感染防止のため、前年度と同様に来所時の検温、マスクの着用、まめな手洗いと消毒、室内の換気を行なった。利用時間の1時間短縮も継続した。</p>
------	---

令和4年度事業報告	事業所名 たすけあいゆい 相談支援センター	管理者氏名	齋藤 美紀
総括	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年末に障害者総合福祉支援法に基づく「指定特定相談支援事業所」の指定更新申請を行い、「令和5年1月1日～令和10年12月31日まで」の5年間、横浜市より指定を受けることができた。事業開始して7年目となり、利用者やその家族が地域社会の一員として暮らしていける様に様々な相談に対して丁寧な対応に心掛け、地域の障害者相談窓口として少しずつ周知されるようになってきている。 		
主要事業・重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 指定特定相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・契約数 102 件（前年度比－8 名） ※目標件数 90 件 ・計画案作成数 86 件（前年度比－12 件） ・モニタリング報告書作成数 370 件（前年度比－87 件） ・総数 456 件（前年度比-99 件） ・1ヶ月モニタリング等実施件数 38 件（前年度比－1.42 件） ○標準件数 35 件/月により目標件数を達成し事業の効率化及び安定化を図ることができた。 契約者内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・新規契約者/2 名 ・契約終了者/14 名 (内訳：介護保険移行 2 名/セルフプラン希望 3 名/他事業所移行 9 名/入院・0 名・サービス終了者 0 名) 対象利用者概要 <ul style="list-style-type: none"> ・南区在住者90名（88%） ・区外在住者12名（12%） (磯子区5名/港南区1名/金沢区1名/泉区2名/戸塚区3名) ・グループホーム及び施設等入居者40名（39.2%） ・在宅生活者62名(60.8%) ・精神障害者（精神保健手帳保持者）及び精神疾患利用者39名（38.2%） ○南区在住及び精神障害者を主な対象者としたサービス提供を担うことができた。 		
・ 地域への貢献 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回開催している南区地域自立支援協議会（相談部会）には全回参加し、事例検討や成年後見制度等の勉強会を行った。区障害者支援担当 CW や一次及び二次相談支援機関（区基幹相談支援センター含）、他相談支援事業所と情報交換を行いネットワーク作りに取り組むことができた。 		

<p>・雇用状況 職員育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職（非常勤/週2日/1日2時間）の配置により事務作業の効率化を図り、相談支援の専門職として本来業務に専念し質の高いサービス提供することができた。 ・事業所内研修（虐待・セクハラ・パワハラ防止）実施、また法人全体研修参加し研鑽を積む事ができた。
<p>予算の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員（常勤・兼務）1名の異動により職員配置数が2名より1名に減員したため、機能強化型体制加算要件は非該当となった。そのため基本報酬が1件あたり150単位（計画案/1672単位⇒1522単位：継続/1410単位⇒1260単位）の減額となり、事業活動収益は減収した。 ・精神障害者支援体制加算（35単位/件）は継続している。
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大状況に合わせて自宅や通所先への訪問の可否を設定。感染のリスクを下げるため電話やメール、郵便などの対応変更。担当者会議は重要案件のある場合のみ開催した。 ・職員は出勤時に検温や体調確認し日報に記録、R4年12月より週1回以上新型コロナウイルス抗原抗体検査を継続的に実施した。 ・相談室来所者には氏名、来所時間、退所時間、住所、当日の体温をチェックし記録及び手指の消毒を依頼。面談終了後はその都度、室内換気、机・椅子・スリッパ等の消毒を実施した。

令和4年度事業報告	事業所名 さくらんぼ	管理者氏名	吉田 優美
総括	<p>年度総数契約者数：28名 延べ利用者数：1,544名／営業日数：257日／1日平均：6人 昨年度より延べ利用者数48名減少。保護者の家庭事情、児童の体力不足により不定期通所、年度途中(夏)での療育センター通所移行に伴い、利用回数の減少、冬期はインフルエンザ流行もあり、体調不良児童が増加し、見込み以上に通所人数が下回ってしまった。年度途中の療育センターは 直前に決定がされるため、想定ができなかった。年度後半より職員のスキルが伴ってきたこともあり、後半利用人数が上向きになるも減少分を取り戻すには至らなかった。 放課後等デイサービスは休止を2年延長した。 保護者、職員による事業所評価アンケートを実施、ホームページに掲載している。</p>		
主要事業・重点取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1 全職員で、児童、家族の困り感に迅速に対応する 営業前、営業後のミーティングはほぼ毎度行えている。全職員が保護者から得た情報を共有できるよう意識を促した。連絡帳に保護者からの記載にどんな些細な内容でもコメントを書いた。記載の頻度はあがり、保護者の困りごと、悩みの記載増え、アドバイスや職員と協議して返事する対応も行った。 この結果、保護者アンケートでは高評価を頂いた。しかし、『いつ相談したらよいか…』と抱えている保護者はおり、相談窓口のアナウンスを改善していきたい。 2 職員の困り感に対応する 営業前、営業後のミーティングはほぼ毎度行えている。毎月の支援改善会議の実施。立場経験年数関係なく職員が伝える、わからないと聞ける環境づくりに配慮した。 3 事業継続計画の策定 虐待防止委員会等の整備、収入確保の為、利用者確保を優先した為、作成に至らなかった。 		
地域への貢献・取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として見守ってもらえるよう地域の公園などを利用して、交流の機会を設けた。次年度も継続していく。 ・町内会の防災訓練、共進中地域防災拠点等の防災訓練は雨天、コロナウィルス感染拡大予防の為、中止、縮小で参加に至らなかった。参加は来年度も継続していきたい。 ・事業を見える化できる取組として、事業の幅広がっている昨今、『療育』の考えも多様化している為、当事業所の取り組む療育を伝える為、『子どもの発達と療育』を掲載。令和5年度契約利用者の中にはこれを見て、通所を決めた方もいらした。 ・「はびねす」児童の作品を7月1日～7月31日の期間内で、『ソーシャルクラブハウス ときわ』、『ハイムこでまり』と展示を行った。 		
職員育成・雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・考課表を用いて常勤、非常勤と人事評価を行っている。 ・下半期は隔月となったが、定期研修、基礎知識を身に付けられる研修を行った。 ・リスクマネジメントの観点より、職員会議内で職員のフォローにより、リスクを回避できた事等を発表し、職員間連携の方法、手段の気づきに繋がっており、職員のモチベーションにも繋がっている。 ・感染症まん延防止対策を行い、クラスターの発生はなかった。 		

<p>予算の達成状況</p>	<p>予算は達成できなかった。 ほぼ人権費として使用し、防災備蓄、修繕費の確保には至らなかった。 利用人数の不安定さが収入に大きく左右される為、午後枠の開所を行う事で、不安定さを減少させたい。</p>
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参観週間は7月に1回行った。秋に2回目を予定していたが、利用者数減少の為、顧客獲得に専念した。 ・ 事業所内限定会報紙は、年3回発行した。 ・ 昨年度同様、新型コロナウイルスに配慮し、保護者会、保護者交流事業は見送った。

VI. 子ども家庭・まちづくり部門 事業報告

令和4年度事業報告	事業所名 児童家庭支援センターむつみの木	管理者氏名	濱田 静江
総括	<p>・利用児と個別で過ごす時間が増え、利用児に合わせた過ごし方が可能となった。利用児の思いにじっくりと寄り添う時間を多く持て、安心して過ごせる場所になった。ただし保護者については、子どもを預けたい気持ちで面談の調整が難しかった。</p> <p>・南区こども家庭支援課との連絡会を年に3回実施。うち1回は中央児童相談所も交えた連絡会を行い、情報共有を行った。当所からの情報共有は行ったが、カンファレンスにはつながらなかった。5月、2月の連絡会では寄り添い型生活支援事業も交え、当所の利用を終えた引き継ぎを行ったケースについて情報共有を行った。</p>		
主要事業・重点取り組み	<p>・アセスメントシートを作成、活用し、個々のニーズに合わせた生活支援を行った。小学校を卒業し子育て短期を終了するケースでは、切れ目ない支援継続のため寄り添い型生活支援事業に引継ぎを行うケースもあった。</p> <p>・保護者との関係構築に努め、家庭環境改善に向けた支援や助言を行った。</p>		
地域への貢献・取り組み	<p>・子育て支援拠点への訪問を行い、リーフレットや地域交流事業のチラシを配布。子育て支援拠点からの紹介で子育て短期支援事業の利用に至ったケースもあった。</p> <p>・地域交流事業ではベビーサイン講師を招き、乳幼児が参加できるイベントを実施。少人数の開催でじっくりとかかわることができた。学童期に向けては、「スライム」「スポーツスタンプラリー」を実施。地域とその家族への周知を行った。</p>		
職員育成・雇用状況	<p>・専門性を高めるために3センター研修の実施、各々研修に参加。支援方針はその都度所内で検討しチームワークを持って支援に臨んだ。</p>		
予算の達成状況	<p>・関係機関との細かな連絡も記録に残し件数を確実に計上するように努めたが、新規の相談や登録は少なく前年度よりも相談件数は減った。</p> <p>・フードバンクの支援を頂き、頂いた食材を用いて子どもたちと調理を行い、生活経験の向上を図った。</p>		

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策補助金により、パソコン、空気清浄機、消毒用アルコールやペーパータオル、洗剤などの消耗品を購入。 ・感染対策として空気清浄機の使用と常時換気を行い利用後にはオゾン脱臭機で室内除菌を行った。 ・子育て短期支援事業の受け入れについては利用時の手洗いの徹底と検温の実施、可能な範囲でのマスクの着用などをおこない利用児を受け入れた。
------	--

令和4年度事業報告	事業所名　こども家庭支援センターゆいの木	管理者氏名	濱田　静江
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士や公認心理師を新たに採用し、地域資源の活用や児童の個別心理ケアなどに力を入れ、職員の専門性を活かし支援を行った。また、更にチームワーク力を高めよりよい支援が行えるよう、意識的に職員間でコミュニケーションを図るよう努めた。 ・磯子区こども家庭課・南部児童相談所との連絡会を年2回実施し、子育て短期支援事業利用世帯や養育家庭等支援事業世帯の支援方針の確認や情報共有を行った。連絡会で個別ケース検討会議開催の要請を行うことで定期的な開催へとつながり、南療Cや保育園、学校教育事務所（SSW）などの関係機関と協働できるようになった。 		
・重点取り組み 主要事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利ノート活用には至らなかったが、職員間でのこまめな情報共有を心がけ、アセスメントを基にした生活支援、保育活動、個別心理を取り入れ、児童に寄り添った支援を強化・継続した。 ・子育て支援機関や民生委員、学校教育事務所（SSW）と連携を強めたことにより、一般相談世帯のニーズに応え、よりよい支援ができた。 		
・取り組み 地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業は年6回実施。地区センター、地域ケアプラザなど杉田地区の関係機関でつながる杉田実行委員会を立ち上げ、ぬりえによる花火展示会を開催。また、予約なしで参加できる子育てサロンを計画し、子育て支援機関の方や子育て世帯に気軽に参加してもらう事ができ、センターの周知につながった。 ・子育て支援拠点と協働できる体制がとれたことで、子育て支援連絡会への参加につながった。 		
・雇用状況 職員育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員は、オンライン開催の研修に積極的に参加、また法人内3センターでの自主研修を開催し、職員の専門性向上に努めることができた。 ・支援を進める中で困難な際に外部スーパーバイズを依頼。スーパーバイザーの導入は職員の気づきにつながり、職員間でセンターとしての方向性の確認が行えた。 ・法人本部とも協力し、良好なチームワークを形成していく仕組みを進めた。 		
達成状況 予算の	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は昨年度に比べ減少、今年度の運営費は例年より増額したこともあり令和5年度は減額。子育て短期支援事業も、件数はやや減少しているが補助金収入は維持した。 		

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・利用家庭及び職員の陽性者が発生し子育て短期利用受入れを休止また閉所することもあったが、相談業務は大幅な変更なく継続した。 ・子育て短期支援事業は、検温や手洗いの徹底・可能な範囲でのマスク着用をし、受入れた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策補助金により、消毒液や空気清浄機などの必要物品を購入し、感染防止の徹底を図った。 ・フードバンクかながわからの食材寄付により、児童の調理体験の機会を増やす事ができ、食育に繋げる事が出来た。
------	---

令和4年度事業報告	事業所名	管理者氏名
	こども家庭支援センターさくらの木	濱田 静江
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士や公認心理師を新たに採用し、長期化しているケースについて対応や方針を見直した。その中で、職員それぞれの専門性を活かしながら資質向上を図る事やチームワーク力を高めていくという課題に取り組み始めた1年でもあった。 ・金沢区こども家庭支援課・南部児童相談所との連絡会を3回実施。第2回では、区内にいる里親家庭の共有などをおこなった。区の子ども家庭支援課に権利擁護班が新設され、より良い連携方法について区と協議を進めている。 	
主要事業・重点取り組み	<p>【相談事業及び子育て短期支援事業】</p> <p>相談事業については、養育者からの単発での新規相談が昨年度同様に多かった。子育て短期支援事業については、昨年度末に利用終了した世帯が複数あり新規相談が上半期にはなかった為前年比はやや減少。一方で、小学校を卒業し中学でも継続している児童が複数いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般世帯からは不登校の相談が増加した。また、区内に児童精神科が開院したことで連携する事が可能になり、いずれの事業においても支援対象へのアセスメントがより充実する事となった。 	
地域への貢献・取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業は年2回実施。一つは、センター前の公園の愛護会と共催しチューリップの球根植えを実施。 <p>70名程の地域の方の参加があった。地域交流事業だけの関りだけではなく、日常的に児童も一緒に関わる居場所になっていたり、地域の方にセンターを知っていただき理解をして頂く機会にもなっている。二つ目は区役所こども家庭支援課との共催で、養育者向け講座を開催。職員が講師となりしアートワークを実施。次年度に繋がる取り組みとなった。</p>	
職員育成・雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を進める中で困難な際に、外部SVを依頼、職員会議において法人内の心理職にSVを求めた。センター内では解決しづらい問題を、SVを導入する事で職員の気づきやアセスメント力向上に繋がった。 ・法人本部とも協力し、良好なチームワークを形成していく仕組みを進めた。 	

予算の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は例年通りを推移し令和5年度の運営費は維持。子育て短期支援事業は、件数はやや減少しているが補助金収入は維持した。 ・引き続き、フードバンク及び地域の農家の方の協力により、子育て短期支援事業における食事提供が充実できている。
特記事項	<p>新型コロナウイルス感染対策については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用家庭および職員の陽性者が発生したものの拡大はせず、業務は大幅な変更なく継続した。 ・子育て短期支援事業の受け入れについては利用時の手洗いの徹底と検温の実施、可能な範囲でのマスクの着用などをおこない受け入れた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大対策補助金により、消毒液類などの必要物品の購入をおこなった。

令和4年度事業報告	事業所名	睦母子生活支援施設	管理者氏名	大場 文子
総括	<p>【入所世帯数】・本入所 18世帯(R5 3/1 現在) 令和4年度入所数 3世帯 退所数 5世帯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急一時世帯 5世帯(R5 3/1 現在) 令和4年度総利用数 5世帯 <p>【妊娠期支援事業】・受け入れ実績 2世帯</p> <p>【地域支援事業】・未就学児対象「ぷるぷる」 学童児「きのこ」は感染予防のため、中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てのひら食堂」(毎月第1土曜日)民衆館 睦ハイム共催 (寄付食品・玩具の配布) ・「こども市場」(毎月第2土曜日)(特非)みんなの海山交流学校 睦ハイム共催 お弁当や寄付品の配布 <p>【アフター支援事業】関係機関との連携支援を行った。実施内容 (訪問・電話相談・DELI・カウンセリング・学童)</p>			
主要事業・重点取り組み	<p>利用者サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍であったため、感染予防に努め環境整備に努めた。利用者アンケートによる結果では、概ね安心・安全な生活が出来た、特にエアコン清掃や健康診断などが良かったとの評価を得た。 ○様々な経験を通し豊かな生活を送れるよう行事や地域活動への参加が望まれる中状況を踏まえ、可能な形で行事を開催し、外出の機会や他者との交流を図ることが出来た。 ○通常の入所に加え妊産婦・外国人・広域等と必要な人に必要な支援が入るよう関係機関と連携しながら取り組んだ。 			
地域への貢献	<p>地域への関係づくりの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こどもとみんなの居場所「手のひら食堂」「こども市場」を開いた。感染予防対策をしながら、寄付食品や玩具の配布などを直接地域の子どもたちにお渡しする形で行い、顔の見える関係を築いた。多くの人に参加し『こどもの貧困』への取り組みとして地域の方に認知されるようになって来た。 			

・雇用状況 職員育成	<p>職員のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Wi-Fi環境を活用し、リモートによる研修や会議を行った。 ○内部人材研修 ダイアログを用いた支援「困難な状況・関係の中での支援の工夫」「ダイアロジカルなチームを目指して」研修を行い、スーパーバイザーとして白木孝二先生をお迎えし、支援の向上に努めた。
予算の達成状況	<p>その他の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ補助金を活用し、全室エアコン清掃や感染予防対策用品を購入し環境整備を行った。 ○昨年度に引き続き、給湯器の18台交換を行った。 ○業者が入り衛生環境保持のための害虫駆除を行った。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ○次世代を担う公認心理師・社会福祉士・保育士の実習生を受け入れた。

令和4年度事業報告	事業所名 つくしんぼ園	管理者氏名	濱田 静江
総括	<p>横浜市乳幼児一時預かり保育事業として、就労、緊急、リフレッシュなど、理由を問わず、地域のお子さんをお預かりした。</p>		
主要事業・重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉かけや保育内容を工夫し、職員同士が連携を取りながら、子どもたちが一日を楽しく過ごせるように保育した。 ○保護者に安心して利用してもらえるよう、コミュニケーションを取り、一つひとつの家庭に丁寧に関わるようにした。 		

<p>地域への貢献・取り組み</p>	<p>○地域の子育て世帯のお子さんを、保護者の希望に添いながらできるだけ沢山お預かりし、地域貢献に努めた。</p> <p>○横浜市一時預かり WEB 予約システムを導入し、保護者がより簡単に予約できるようになった。</p>
<p>職員育成・雇用状況</p>	<p>○月 1 回職員会議を行い、子ども一人ひとりの様子、保護者支援について話し合い、情報共有を行った。</p> <p>○南区主催の保育研修や乳幼児のための救命救急講習に参加した。研修後は全職員で施設内研修を行い、専門性の向上に努めた。</p>
<p>予算の達成状況</p>	<p>○定期利用の子どもが少なく、保育利用料が昨年度より大幅に減ったため、収入が支出を下回った。</p>
<p>特記事項</p>	<p>○子ども、職員ともに、検温を 3 時間おきに行い、体調の変化に注意しながら保育を行った。</p> <p>○次亜塩素酸ナトリウムを使用し、玩具や保育用品を消毒。園児の降園後は、オゾン発生装置を使用し、保育室内の消毒を毎日行った。</p> <p>○コロナ禍でも、行政の指導に従って受け入れを行い、休園することなく運営した。</p>

令和4年度事業報告	事業所名 ゆいひなた塾	管理者氏名	濱田 静江															
総括	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より新規利用登録の増加と共に、継続の利用児も定期的な利用が定着し、充実した支援を行うことができた。 ・子どもや保護者から丁寧にアセスメントをとり、進路相談や家庭での個別の生活課題等こまやかな支援を心掛け、個別のニーズに合わせた生活支援・学習支援・居場所支援を行うことができた。 ・南区子ども家庭支援課・学校・関係機関等と個別の課題や相談に応じて連携を強化した。 																	
主要事業・重点取り組み	<p>【利用実績】</p> <table border="0" data-bbox="284 656 1013 786"> <tr> <td>利用登録</td> <td>小学生</td> <td>6名</td> <td>中学生</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>延べ利用人数</td> <td>小学生</td> <td>141名</td> <td>中学生</td> <td>412名</td> </tr> <tr> <td>月平均利用人数</td> <td>小学生</td> <td>11.7名</td> <td>中学生</td> <td>34.3名</td> </tr> </table> <p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区子ども家庭支援課との連絡会を年に2回実施（引き継ぎケースは児童家庭支援センターと合同）。個別ケースカンファレンス 5回参加。関係機関での支援方針の共有や連携を図った。 ・南区生活支援課教育相談と連携し進路相談を行い、利用児自身が主体的に進路決定を行うことができた（高校進学 1名）。 ・個別に合わせた学習プログラムや教材を準備し、学習支援を行った。個別対応が必要な利用児へは、別枠の時間や環境を設定した。 ・家庭訪問や電話連絡等で保護者支援を実施し、保護者や子どもの思いを汲み取りながら自立に向けた生活支援を行った。 ・アンケートや個別の面談で意思表示や自己決定ができるよう、日頃から利用児の気持ちに寄り添えるように関わりを行った。 ・児童家庭支援センターからの引き継ぎケースは、継続した支援が行えるよう連携を図った。 			利用登録	小学生	6名	中学生	7名	延べ利用人数	小学生	141名	中学生	412名	月平均利用人数	小学生	11.7名	中学生	34.3名
利用登録	小学生	6名	中学生	7名														
延べ利用人数	小学生	141名	中学生	412名														
月平均利用人数	小学生	11.7名	中学生	34.3名														
・ 地域への貢献 ・ 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の方々からのゆるやかな見守りのもと、運営を行うことができた。 ・区と連携し地域の民生委員の協力や利用児へ子ども食堂・フードパントリーへの参加の促しを行った。 																	
・ 職員育成 ・ 雇用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市主催の寄り添い型生活支援の情報交換会や研修へ参加。その他オンライン研修で非常勤職員も研修に参加しスキルアップを図った。 																	
予算の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・委託費から、子どもたちへの生活支援での食事提供・学習支援に必要な教材・イベントなどのプログラムを充実させることができた。 ・フードバンクやセブンイレブン等、たくさんの企業や地域の皆様のご支援が子どもたちの生活の充実につながった。 																	

特記事項	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ感染予防に努め、利用児へも手洗い・うがい等の習慣づけの支援を行った。・ 学校休業期間は時間を区切ったの利用を実施し、個別の支援を行うことができたので、今後も継続して行う。
------	---